



蠟梅や紅白の梅の香りが漂っています。少しずつ春の兆しを感じられます。

平安時代後期、下総国だった古河辺りから南の古利根川流域、新方郷(現越谷東部)、松伏、吉川、三郷の一帯には下河辺荘という荘園がありました。治承4年(1180年)8月に反平家の挙兵をした源頼朝は石橋山の合戦で敗北して房総半島へ脱出しますが、9月に入って下河辺庄司行平らに参集を呼びかけました。行平は頼朝の側近となっていき、弓の名手だったと鎌倉幕府の記録『吾妻鏡』に記されています。

ことわり

自然の理・自然への畏敬

昭和60年頃の茅葺21棟

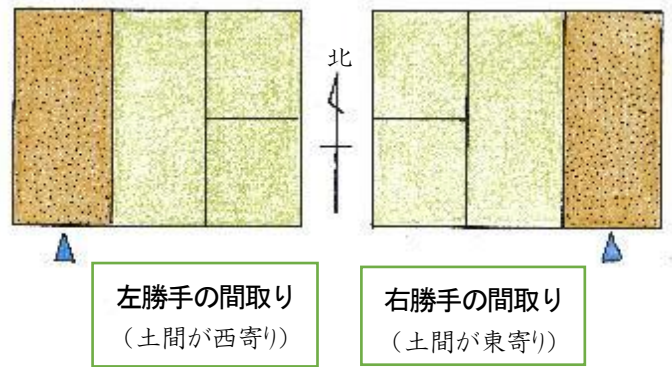
日本工業大学建築学科建築史研究室編「越谷市草葺民家調査報告」(昭和62年3月)には、今から30数年前の市域にあった21棟の現住茅葺民家について記録されています。今号では古民家の間取りの特徴をお話します。

主屋の方位・土間の位置

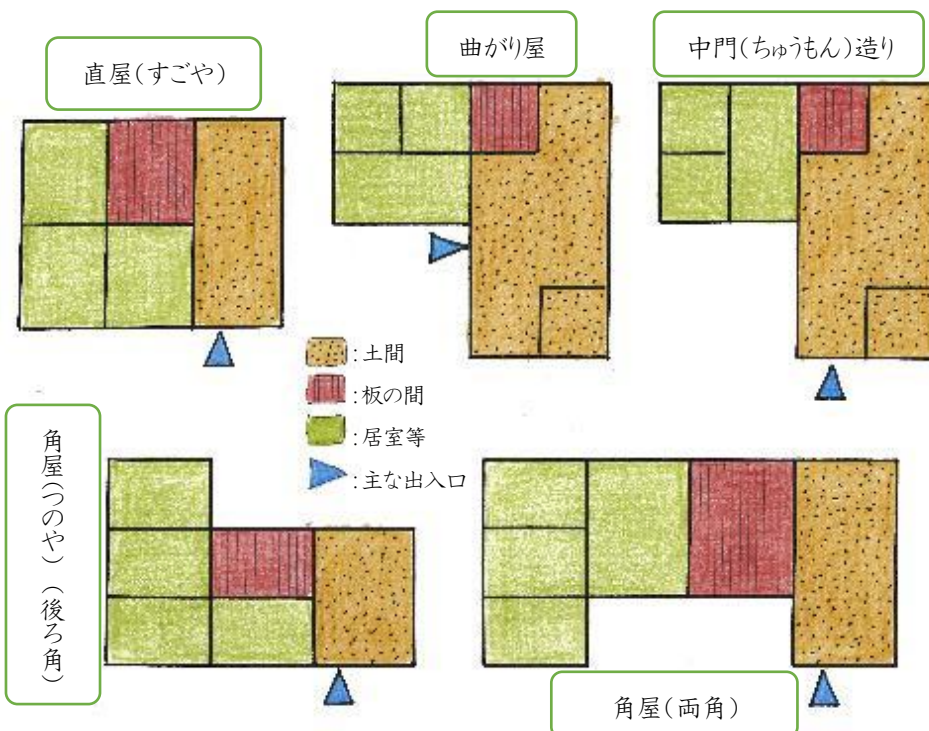
現代住宅でも南側の窓を大きくとりますが、いわゆる古民家は現代住宅以上に方位を意識した間取りになっています。前掲の「報告」では21棟の主屋すべてが南側を中心として南西～南東の方向を正面にしていました。主な出入口(大戸口、式台付玄関)の方位です。

土間は古民家には必ずありますが、その位置も一定の傾向が見られます。21棟の中では3棟が西寄りにあり、1棟が南寄り、他は東寄りでした。

主屋以外でも方位を意識して設けられた施設があります。井戸→南西 蔵→北西 厩→北西(または北東は避ける) 屋敷林→北や西 などです。



農家の間取り



一般的な農家には左のようなタイプがありました。

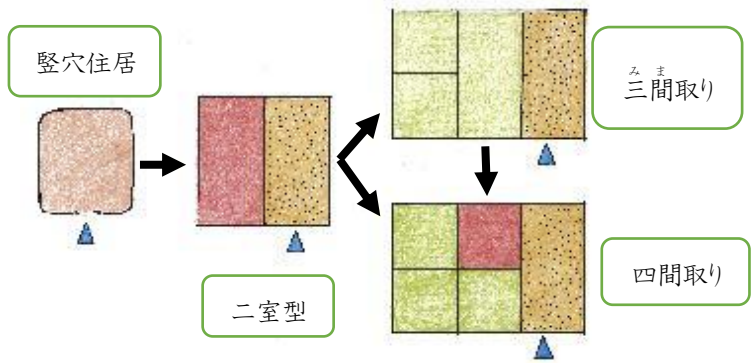
前掲「報告」の21棟の中には直屋と角屋造りがありました。曲がり屋は東北地方に多く、中門造りは新潟県から東北日本海側に多く見られ、土間の一角には牛馬を入れておくこともありました。

土間には竈があり、水がめも近くにありました。流しは板の間に“座り流し”が設えていることもありました。また農具の一部が置かれていることもありました。

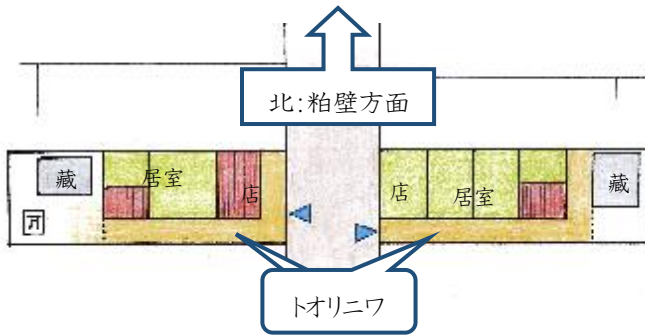
間取りの変遷

日本列島で古くからつくられていた^{たてあな}竪穴住居は地面を掘り下げて作った一室に屋根をかけたものでした。民衆の家は平安時代までは竪穴住居が多かったようです。そこから部屋が分化していきました。

板敷きや畳敷きの床は土間よりも高いのが一般的ですが、ある時期には土間の隣の同じ面に藁を敷き、その上に蓆を敷いた“土座”で寝起きをした所もありました。



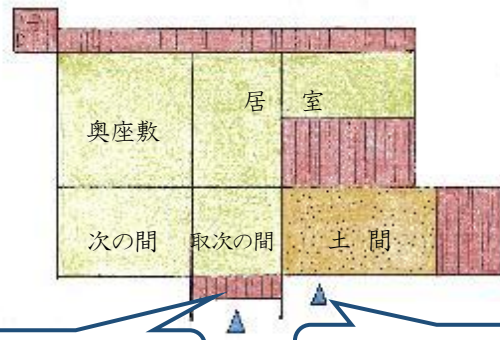
町家の特徴



日光道中に面した所には今も往時の町家造りが見られます。町家は間口よりも奥行きが何倍も長いのが特徴です。その土間は農家と異なり表から裏までの通路でもあるので、「トオリニワ」と呼ばれることもあります。この位置は街道の東側では通りから見て右側、西側では左側に統一されています。つまり南側にあります。「トオリニワ」には屋根がかかっている場合と露天の場合があります。

中級武士の家

下級武士は長屋住まいも少なくありませんでしたが、それ以上の武士は一戸建て住宅に住めたようです。ここに示したのは北陸のある藩士の家です。こういう間取りの場合、居住部分と土間・板の間部分で別屋根になっているものもありました。(分棟型)



共通する土間

土間は農家、商家、武家のどの家にも見られます。土間には出入口が複数あります。そして食事の支度をする場所でもあり、生業に関わる作業をする場所でもありました。それに適した造りになっています。床は小砂利や砂と粘土にニガリと石灰を加えた物を練って、厚い板でたたいて作りました。そこでこの床を“^{とよき}三和土”と言います。

式台付玄関
来客や当家主人の玄関

大戸口
雇われ人、商人等の出入口

“自然”を意識した造り

古民家が方位を意識して建てられているのは、一つには変化に富む季節に対応するためです。夏の蒸し暑さや冬の冷たい季節風を少しでも防ごうとする工夫が見られます。また特に農業は季節の変化を鋭く見極めなければなりません。そして自然を畏敬するところから、家のあちこちにそれぞれの神を祀りました。

【参考文献】

- ・越谷市市史編纂室「越谷市民俗資料」
- ・越谷市教育委員会「大間野町旧中村家住宅復元整備工事報告書」
- ・日本工業大学建築学科建築史研究室編「越谷市草葺民家調査報告」
- ・「民家と四季」(川崎市立日本民家園)
- ・中川武「日本の家」(TOTO出版)
- ・川島宙次「民家のなりたち」(小峰書店)
- ・川島宙次、島田アツヒト「民家の事典」(小峰書店)
- ・川村善之「日本民家の造形」(淡交社)
- ・永瀬克己他「民俗建築大事典」(柏書房)
- ・高橋昌巳他「伝統木造建築事典」(井上書院)
- ・村上地域まちづくり協議会編「城下町村上探検ガイド」I、II
- ・今和次郎「日本の民家」(岩波文庫)